

訪問記録（中華民国）

大学入試中心、大学招生委員会聯合会

陳 那森

この報告書は、2008年3月18日午後に台湾の大学入学試験中心で、2008年3月19日午前大学招生委員会聯合会で実施した聞き取り調査と、提供された関連資料等を参考にまとめたものである。

1 大学入学試験中心（以下、大考中心と略す）

- ・ 所在地：台北市舟山路 237 號 URL: <http://www.ceec.edu.tw/>

1.1 概略

今回の訪問では、はじめに準備された資料により大考中心の紹介がなされ、その後、関心のある話題について質疑応答の形で進められた。

台湾の大学入試制度の始まりは、1954年にはじめて実施された複数大学による聯合入試に遡る。その後、47年余りにわたり、この「聯考」と呼ばれる一発勝負型の試験が実施された。1990年代に入ってから、入試制度見直しの機運が高まり、大考中心がまとめた「大學入學制度改革建議書」が現在の多元入試制度の制定に重要な役割を果たした。[1]

・ 沿革

1989年7月1日に教育部により設立され、最初の名称は「中華民國大學入學考試中心」だった。

1993年3月に、大学の共同出資による「財團法人大學入學考試中心基金會」に移行した。

設立の目的：①大学入試制度の改革や入試方法の改善、②大学入試の実施

・ 成果物

「大學入學制度改革建議書」の完成

「學科能力測驗」の実施

「指定科目考試」の実施

入試業務の改善、高校生および保護者への多元入学試験制度の啓蒙教育、入試関連書籍の出版など

・ 今後の展開

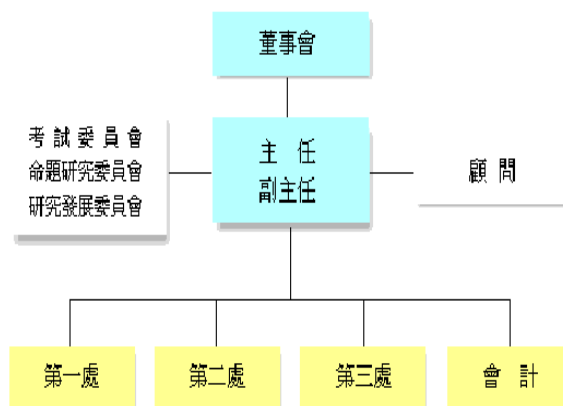
大学入試を専門とした組織へと発展し、各種試験問題に関する研究開発、試験関連業務の改善、試験関連情報提供サービスの強化などを挙げている。

1.2 組織（組織図参照）

1.2.1 考試委員会

考試委員会は、主任より、教育行政主管部門代表 3 名、専門家 3 名、招聯会代表 3 名、高校校長 3 名と、本センターメンバー 4 人に委任して構成し、以下の各項を任務とする。[2]

- ・ 大考中心が受け持つ各種試験の実施方法と実施要項の審議
- ・ 試験規定違反および重大な異議申し立て案件の処理に対する決議
- ・ 成績処理およびチェック業務への監督
- ・ 試験業務改善意見の提供
- ・ その他の試験関連事項に関するコンサルティング



1.2.2 命題研究委員會

命題研究委員會は、大考中心主任より委任された 9 から 13 名の委員から構成し、以下の各項を任務とする。

- ・ 大考中心の教育測定に関する計画の策定への協力
- ・ 大考中心試験問題 DB の構築案についての審議
- ・ 試験問題研究計画の実施に対する評価

1.2.3 研究發展委員會

研究發展委員會は、大考中心主任より委任された 7 から 9 名の委員から構成し、以下の各項を任務とする。

- ・ 大考中心の研究發展計画の策定への協力
- ・ 大考中心研究發展計画案の審議
- ・ 大考中心研究發展計画案の実施に対する評価
- ・

1.2.4 顧問

大考中心主任より学識経験者若干名を顧問として置くことができる。現在の構成は、名誉顧問 1 名、顧問 10 名、個別案件顧問 2 名となっている。

1.2.5 第 1 処

- ・ 試験問題の研究開発、および試験科目の開発および関連命題の研究を担当し、試験問題信頼度の維持を図ると共に、高校教育と大学入試の考慮に入れる

- ・採点の企画研究を行ない、採点の品質と技術の向上を図る
- ・試験の技術的課題の研究、試験問題 DB の構築と管理、試験関連刊行物の編集

1.2.6 第2処

- ・試験業務の企画と実施を担当する。これには、学科能力試験と指定科目試験の実施業務、および術科（技能科目）試験委員会から委託された試験の管理業務が含まれる。
- ・試験成績の登録とチェック、ネットワークシステムの開発と管理、試験会場の計画、交流・出版・コンサルティングなどの形式による、試験関連サービスの提供

1.2.7 第3処

- ・大考中心の心臓部にあたり、各処の研究、試験業務が円滑に遂行されるように支援することを担当する。人事、庶務、文書、マスコミ対応や公共関係などの業務が含まれる。

1.2.8 会計

予算決算の編成と財務管理業務を行なう。

1.3 大考中心が実施する試験

1.3.1 学科能力検定試験（原語：学科能力試験）

学科能力検定試験（以下「学測」と略す）は1994年から実施された。受験対象科目は、国語、英語、数学、社会と自然の5つである。国語の試験時間は120分、ほかはすべて100分である。問題の範囲は、高1と高2の学習内容に限定されている。問題の形式は、選択式が多いが、国語と英語には記述式の問題がある。受験生に通知される成績は、得点そのものではなく、等級で示される。等級の決め方は、当該科目の上位1%の学生の平均点を15で除算した数値を基準として用い、受験生全体が15の等級に分けられる。

その位置づけは、大学が受験生を篩い分けるための最初の敷居である。そのために、「学測」は、高校生が大学での授業を受けるために備えるべき基本的な知識を身につけているのか、をはかることを主たる目的としている。

毎年2月初めに実施される。成績は、主に大学独自選抜（学校推薦と個人申請）と、繁星計画（後述）、試験配分入学に用いられる。

1.3.2 指定科目試験（原語：指定科目考試）

指定科目試験（以下「指考」と略す）前掲の「学測」より若干遅れて導入され、国語、英語、数学甲、数学乙、歴史、地理、物理、化学と生物の 9 科目からなる。「指考」には、高 1 から高 3 まで学習した内容が含まれている。試験時間はすべて 80 分である。出題の形式は選択型と非選択型に大別される。加重計算がしやすいように、成績はすべて百点満点となっている。

各募集主体（学部学科など）は、必要に応じて、3～6 教科の成績を受験生評価の根拠とする。「指考」は、大学の受験生選抜のための設計されたものであるため、高校の教育活動に配慮しつつ、受験生が備え持つべき教科知識と、大学の学部学科が要求する教科知識、応用能力を測ること目的としている。

毎年、7 月初めに大考中心により実施される。試験配分入学方式では、すべて「指考」の 3～6 科目（含技能科目）の成績を必要とする。

1.3.3 術科考試

「音楽、美術、体育」の 3 項目の技能試験は、「大学術科考試委員会聯合会」で統一して手続きし、舞踊、芝居、国楽、国劇、運動競技などの技能試験は、関係大学学科で手続きをする。

12 月に申込み、翌年の 2 月中旬ごろ試験を実施する。技能科目の成績は、「一試多用」となっており、大学独自選抜や試験配分入学、および単独募集などに利用される。

2 大学招生委員会聯合会（以下、「招聯会」と略す）

- ・ 調査日：2008 年 3 月 19 日 午前
- ・ 調査者：濱名篤（関西国際大学）、岩井洋（同）、陳那森（同）
- ・ 大学所在地：台北市羅斯福路 4 段 1 號 URL: <http://www.jbcrc.edu.tw/>
- ・ 調査目的 台湾の大学学生募集の仕組みを調べるため

今回の訪問では、はじめに準備された資料により「招聯会」の紹介がなされ、その後、関心のある話題について質疑応答の形で進められた。

「招聯会」は、以前からの聯合募集のために設置されていた機関が 1997 年に大学学生募集政策実施会（原語は「大学招生策進会」となり、それがさらに 2002 年に改称したものである。当該組織は、各大学を会員とし、各大学の学長を代表とする。現

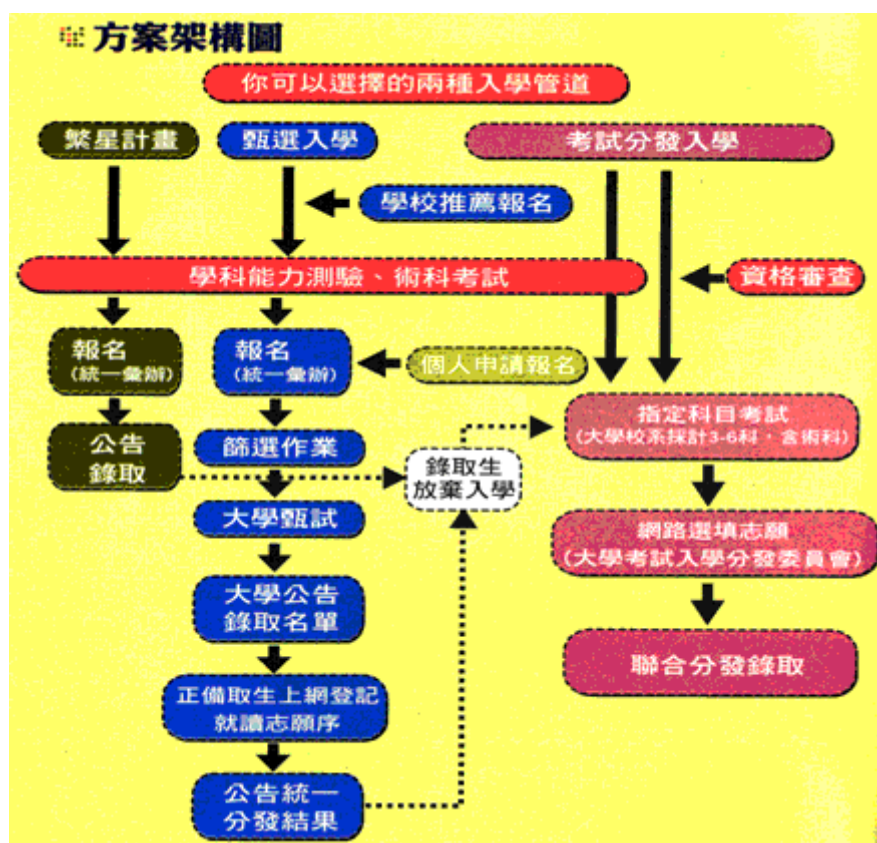


在の会員数は 72 大学である。その主な任務は、学生募集方針の討議・策定と、各大学の学生募集要項の調整である。

右の組織図の通り、「招聯会」の下位組織として、試験配分委員会（原語は「大學考試入學分發委員會」と独自選抜委員会（原語は「大學甄選入學委員會」）が設置されており、それぞれ試験配分入学と大学独自選抜に関する業務を行なうことになっている[3]。

大学法によれば、「招聯会」は教育部の監督のもと、学術団体もしくは財団法人に大学入学試験に関する業務を委託して行わなければならないと定められている。

3 大学多元入学方案の概要



上のフロチャートに示されるように、各大学は、それぞれの特色により募集条件を設定し、適材適所で学生を選抜するのである。教育部の規定によれば、試験配分による募集人数は募集定員の 60%を下回ってはならず、大学独自選抜の募集人数は募集定員の 40%（そのうち学校推薦は募集定員の 5%を下回ってはならない）を超えてはならない。以下では、2大選抜ルート（試験分發入学と甄選入学）に加え、2007 年度から試験的に導入された繁星計画について見て

いくことにする[4]。

3.1.1 大学独自選抜

大学独自選抜は、従来の学力試験では測れない思考能力や創造的能力、コミュニケーション能力を評価することと、都市部と非都市部との格差是正をあわせて配慮することを目的としており、学校推薦と個人申請に分けられる。

- ・ 申込みから第一段階での篩い分けまでは、独自選抜委員会が行っている。
- ・ 学校推薦では、高校が各学部学科に条件を満たした当該年度の卒業生を推薦する。個人申請では、学生が自分の興味関心に合った学部学科に申請を行なう。
- ・ 受験生は、「学測」に参加し、かつその成績が希望学部学科の要求を満たすほか、希望学部学科が必要とされるほかの試験を課されることができる。
- ・ 学校推薦では、1学部学科しか推薦できない。個人申請の場合は、5学部学科まで申請可能であるが、募集主体がこの数を設定できる。
- ・ 受験生は、同一大学の学部学科にこの2ルートのどちらかにしか申し込むことができない。
- ・ 合格者は決められた期間内にネットを通じて入学の意思を表明し泣ければ、入学資格を放棄したとみなされる。
- ・ 第1段階の篩い分けを通過し学生は、第2段階として希望大学の学部学科が実施する指定項目甄試を受けることになっている。甄試の項目は書類審査、筆記試験、口頭試問、実技などがある。
- ・ 繁星計画ルートの受験生は、学校推薦と個人申請による受験はできない。また、合格者は決められた期間内に、ネット経由で入学の意思を表明しなければ、試験配分入学や技術系の大学聯合登録配分入学による受験ができない。

3.1.2 試験配分入学

このルートによる入学者選抜において、募集要項の作成から受験申込み受理、登録配分作業などは、試験配分委員会により行なわれる。高卒か同等の学力を持つものなら、当該年度の「学測」と「指考」、技能試験などの成績をもって、当該年度の試験配分入学に参加することができる。

- ・ 成績の集計は、科目ごとに1.00、1.25、1.50、1.75、2.00のいずれかの比重を乗じた傾斜配点の仕方をとる。
- ・ 志望校の登録は、登録費を支払ってからでないとできない。
- ・ 受験生は、大學考試入學分發委員會のウェブサイトアクセスし、100を上限とする志望を登録できる。
- ・ 既に、大学独自選抜或いは繁星計画による入学資格を保有しているものは、

決められた期間内にそれらの資格を放棄しなければ、試験配分による登録はできない。

3.1.3 繁星計画

教育資源の都市部と非都市部との格差是正、および非都市部の受験生にも大学教育を受ける機会を均等に与えるために、2007年度から実施された取り組みである。繁星計画は、現在教育部により決められ経費補助を受けている12大学で限定的に実施されている。

- ・ 当該年度の高校卒業生のみが推薦を受ける資格がある。
- ・ 受験生は、「学測」を受けなければならない。
- ・ 当該年度の大学独自選抜の指定項目甄試に参加してはならない。
- ・ このルートによる入学資格をせずに、当該年度の試験配分入学や技術系の聯合登録配分入学を受験してはならない。違反者はこのルートでの入学資格が取消される。

3.1.4 大学单独募集

大学单独募集とは、他大学と連合せずに学生募集や入学試験を単独で実施するということである。台湾においては、連合募集が主流であるが、国立台北芸術大学や体育学院などの芸術・体育関係の学院を設置している大学では、例えば体育の成績が優秀な生徒（原語：運動積優學生）に対する個別募集がある。このほかに、軍警学校においても、中央警察大学の4年制大学と2年制技術系などの個別募集がある。国防大学をはじめとする軍事学校の場合は軍人材募集センター（原語：國軍人材招募中心）を経由し、個別募集をする。個別募集を行う学校の大多数は、学科能力検定試験（専門によっては、実技試験を追加する場合もある）を基本的な参考値として選考を行う

4 まとめ

この報告書は、台湾の大学入学者選抜において、重要な役割を担っている二つの機関、すなわち大考中心と招聯会に聞き取り調査を実施した資料をもとに、台湾での大学入試、学生募集に関する制度、仕組みについてまとめたものである。現在の多元化入学制度は、47年も実施されていた「聯考」の弱点を克服するために考案されたものであるが、実施直後から複雑すぎる、公平性に欠けるなど、さまざまな批判を受けてきた。しかし、その後何回かにわたる改良（例えば2004年からの大幅な簡素化や最近で言えば「繁星計画」の試行など）、および関係部門による受験生や保護者向けの研修会等を徹底することにより、次第に受け入れられやすい形になってきているように思われる。

この台湾の大学入学者選抜は、試験・募集業務のすみ分けと、受験生の適正・能力を尊重した多元入学ルートの提供（原語は「考招分離、多元入学」）で表わすことができると考えられる。

参考文献

- [1] 楊李娜, 「臺灣大學入學考試制度改革探析」, 教育發展研究, 2002. 6
- [2] 財團法人大學入學考試中心基金會公式ウェブサイト：
<http://www.ceec.edu.tw/>
- [3] 大學招生委員會聯合會公式ウェブサイト：<http://www.jbrc.edu.tw/>
- [4] 教育部編、「97(2008)年大學多元入學宣導手冊」、2007年9月
- [5] 東北大学、平成18年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業 「受験生の思考力、表現力等の判定やアドミッションポリシーを踏まえた入試の個性化に関する調査研究」報告書、平成19年3月。

技専校院入学測驗中心

(Testing Center for Technological & Vocational Education)

林 篤裕

URL: <http://www.tcte.edu.tw/> (中国語)

訪問日時: 2008年4月28日 10:30~12:00

訪問者: 川嶋 太津夫、荻上 紘一、濱名 篤、曾 徳興、林 篤裕

対応者: Lin, Tsong-Ming (林 聰明) (雲林科技大学 校長, President)

Hou, Chun-Kan (侯 春看) (雲林科技大学 副校長, Vice President)

Chiou, Shang-Chia (邱 上嘉) (雲林科技大学 副校長, Vice President)

Su, Chun-Tseng (蘇 純繪) (技専校院入学測驗中心 研究發展所 所長)

Wang, Dau-Chung (汪 島軍) (雲林科技大学 国際所 所長)

台湾における大学入学者選抜は、教育部の所管の下に、一般の大学を志願する者と科学技術系の大学を志願する者に対して別々に実施されている。更に、「考招分離」と呼ばれる、入学試験（「考試」）と募集・選抜（「招生」）とを別の組織が担当している。

一般の大学については、「考試」は大学入学考試中心が担当し、「招生」は大学甄選入学委員会と大学考試入学分發委員会が担当している。一方、科学技術系大学については、「考試」は技専校院入学測驗中心(雲林科技大学に併設)が担当し、「招生」は技専校院招生策進總會(100校程度の科技系大学の学長で構成)が担当している。

技専校院考招制度、即ち科技系大学の入学者選抜の概略は以下の通りである。科技系大学には4年制と2年制があり、それぞれ「四技」、「二專」と呼ばれている。科技系大学に入学を希望する者は、原則として「統一入学測驗」(2001年導入)を受験しなければならない。受験者の大半は、職業系の高校卒業(予定)者であるが、普通高校卒業(予定)者も受験することが出来る。統一入学測驗は「二專」向けが4月下旬(受験者数3.8万人, 2008年の場合)、「四技」向けが5月中旬(同17万人)の各々2日間で実施されるが、「二專」向け試験の受験者は減少傾向にあるという。

「四技」向け試験について詳しく言えば、試験科目は、国語、英語、数学が必須科目であり、専門科目は23分野(機械、汽車、電機、電子、化工、衛生、土木建築、工業設計、工程、管理、護理、食品、商業、商業設計、幼保、美容、

家政、農業、英文、日文、餐旅、海事、水産)から2科目を選択する。23分野の各々に2種類の試験が用意されているので、合計で50科目の試験を作成することになる(「二専」向け試験は合計で45科目)。科目数が多く作題に費用がかかるので、縮小したいと考えているようである。出題範囲は高校3年生の2学期までの範囲で、これは試験実施日(5月)の2週間前までの範囲とのことである。科目ごとの試験範囲は以下 URL に掲載されている(2008年(台湾暦97年)の場合)。

- ・ 「四技」向け試験(4年制):
http://www.tcte.edu.tw/download/97year/97range_4y/
- ・ 「二専」向け試験(2年制):
http://www.tcte.edu.tw/download/97year/97range_2y/

試験問題は大学から科目担当の教員を招聘し、合宿形式の短期間(2週間程度)で作成している。試験問題バンク(「題庫」)もあるようだが、再利用を考えているのではなく、将来の出題に備えてのアイディア集的なものようであった。

試験結果は、実施2~3週間後に受験者本人と技専校院招生策進総会に報告される。受験者は、第1のチャンスとして、「推薦甄選」(推薦入学)に挑戦することが出来る。出願は1人1校に限られるが、約60%の者が挑戦するという。「推薦甄選」の受け入れ可能人数は総定員の40%以内と定められているが、実際には30%程度に留まっているらしい。選抜は、主には試験結果を用い、必要に応じて面接や内申書を併用して、各大学が独自に行う。合格した場合は、入学手続を行うか、権利を放棄して第2のチャンスに賭けるかの選択が出来る。合格発表は6月末~7月初旬である。

第2のチャンスは、8月に行われる「聯合登記分発」であり、入学者選抜の中心をなす。志望校(学部・学科)を100まで記入することが可能であるが、平均は50程度であるという(合格発表は8月10日頃)。どこかには合格するようだが、入学を希望しない場合には、第3のチャンスとして、夜間部の「聯合登記分発」に出願することが可能である(合格発表は8月20日頃)。加えて、制度上は大学入学考試中心が7月に実施する「指定科目考試」(国文、英文、数学甲、数学乙、歴史、地理、物理、化学、生物から3~6科目)を受験することも可能ではあるが、職業系高校の生徒にとっては非常に難しい試験のようである。

年度内に3度のチャンスがあることになるが、次年度に賭ける者もいる。

科技系大学に入学を希望する者は、「統一入学測驗」を受験することが原則であるが、例外として、各種の国際スキル・オリンピック(ロボットコンテスト等)で3位以内に入賞した者には、「統一入学測驗」を課さずに入学が許可される。

毎年全国で約 300 名がこの方法で入学しているという。

国立台北大学

岩井 洋

大学概要

1949年、台湾省立行政専科学校として設立される。その後、台湾省立法商学院や中興大学法商学院等の時代を経て、2000年、総合大学として国立台北大学となる。「自由」(Freedom)、「創新」(Innovation)、「卓越」(excellence)を教育理念とする。台北市内にある旧キャンパスとは別に、台北県三峡鎮に55ヘクタールの新キャンパスを開設。現在、法律学院、商学院、公共事務学院、社会科学学院、人文学院、電機情報学院の6学部をもつ。総学生数5,137人。

ウェブサイト：<http://www.ntpu.edu.tw>

大学所在地：三峡キャンパス（台北県三峡鎮大学路151号）

訪問日

2008年3月18日

訪問者

濱名篤（関西国際大学）、陳那森（同）、岩井洋（同）

アドミッション・オフィスあるいは同等組織の概要

台北大学には、日本でいう入試課に相当する部署は存在しない。これは、入試に関わる業務の多くが、大学入学考試中心や大学招生委員会連合会を経由した学生情報の利用に関わることによる。したがって、学内に特別の入試関連部署を置く必要性が低いということになる。実際の入試において、大学が独自に行なう面接では、ほぼ全教員が面接に関与し、各学部学科の教育目標に照らし合わせて選抜するという。

入試方式・方法および入試における共通テストの利用方法と比重

大学が公表している2007年度入試結果によると、約88%が「考試分發入学」による入学者である。現在、台湾の教育部により、推薦枠は40%以内と定められているが、大学側としては、その範囲内で推薦枠を増やしたいという。また、高砂族等の少数民族の進学促進政策として策定された「繁星計画」に関しては、計画に沿った募集人員を増加することも検討中である。なお、台北大学には、学科能力測驗の成績が12～14級の学生が入学しているという。

共通テストあるいは入試成績と入学後の成績との関係

入試方法と入学後の成績との相関関係等に関する実証的分析は、現時点では行っていないが、次年度の学生募集にあたっては、各学部学科で、前年度の学生の学業レベルを参考にしている。

大学入試の問題点

入試方法等に関する改善については、人文科学等の伝統的な分野では、その選抜方法として指定科目試験が適合的であるが、新しい分野（たとえば、スポーツ・マネジメント等）では、推薦入試を実施したほうが、学部学科が求める人材に適合した学生を獲得できる、との意見があった。

現在、入試方法との関連で直面している課題のひとつは、指定科目試験のように、学力テストのみで入学した学生は、モチベーションが低い傾向があるとの意見もあった。モチベーションの向上についての対策としては、「将来何になりたいか」といったキャリアについて考えさせる試みや、入学したコースとの不適合を緩和するために、2つのコースを同時並行で履修させ、2つの学位を与えるコースも考えているという。

国立台中教育大学

岩井 洋

大学概要

1923 年、小学校教員の養成機関として設立され、師範専門学校となる。1945 年、日本占領下から解放後、台湾省立台中師範学校となる。1991 年、国立台中師範学院と改称。2005 年、台中教育大学となり、教育学部、人文科学部、数学・情報科学部からなる総合大学となる。総学生数、3,958 人。

ウェブサイト：<http://www.ntcu.edu.tw>

大学所在地：台中市西区民生路 140 号

訪問日

2008 年 3 月 20 日

訪問者

濱名篤（関西国際大学）、陳那森（同）、岩井洋（同）

アドミッション・オフィスあるいは同等組織の概要

実際の入試業務に関しては、教務課が所掌している。推薦試験における面接内容等は、学科ごとに異なり、学科が決定権をもつ。面接の実施形態としては、たとえば数学科の場合、30 人程度を 6 人で面接している。ただし、現実には、選抜にあたって面接の成績はあまり重要視されていないという。

入試方式・方法および入試における共通テストの利用方法と比重

大学が公表している 2007 年度入試結果によると、約 80%が「考試分發入学」による入学者で、残りの 10~20%が推薦による入学者である。「繁星計画」については、その導入について検討中であるという。

共通テストあるいは入試成績と入学後の成績との関係

入試方法と入学後の学業成績との相関関係等についての実証的分析はないが、経験的にみて、推薦入試による学生は、各自の興味関心と学科の内容が適合し、入学後の成績もおおむね良好であるという。また、モチベーション面においても、推薦入学者のほうが、指定科目考試による入学者よりも高い、との意見もあった。

大学入試の問題点

入試方法等の改善に関しては、学科能力試験だけでは不十分で、さらに別のテストも実施すべきだという声もある。事実、数学科においては、2～3年前まで、別途数学の試験を受験生に課していた。しかし、試験問題の作成にかかる労力や試験に要する時間の制約等の理由で、現在では行なわれなくなった。

高大接続上の問題点

学生の学力低下に関しては、次のような意見もあった。PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）等では、国際的には高い学力を維持しているが、学力低下の傾向は否めない。これは、一部には高校のカリキュラムと関連があると思われる。3～4年前からカリキュラムが改変され、学習内容が易しくなった。また、週4時間、「弾性時間」と呼ばれる時間が設置され、その使い方は各教育機関の裁量にまかされているが、多くの学校がクラブ活動や奉仕活動、数学等の補習に利用しているという。このように、日本の「ゆとり教育」に類似した現象が学力低下を招いたのではないかと、との意見もあった。

静宜大学

(Providence University)

岩井 洋

大学概要

大学の歴史は、1920年、アメリカ・インディアナ州のカトリック会派 The Sisters of Providence of Saint Mary-of-the-Woods の修道女が台湾に宣教をはじめ、華美女子中小学校を設立したことにはじまる。その後、天主教英語補習学校（1949）、静宜女子英語専科（1956）、静宜女子文理学院（1963）、静宜女子大学（1989）を経て、1993年、静宜大学に改称し、男女共学の総合大学となる。外語学院、人文社会科学学院、理学院、管理学院、情報学院の5学部からなる。海外との交流やサービスラーニング（服務学習）にも力を入れている。英文大学名の Providence は「神の意志」や「摂理」を意味する。

ウェブサイト：<http://www.pu.edu.tw>

大学所在地：台中県沙鹿鎮中棲路 200 号

訪問日

2008年3月20日

訪問者

濱名篤（関西国際大学）、陳那森（同）、岩井洋（同）

アドミッション・オフィスあるいは同等組織の概要

入試担当部署として、招生組（入試課相当）を教務部の下位組織と設けている点で、前掲2校と違っている。招生組のWebサイトでは、受験生に対して、豊富な情報を提供している。入試に関する最新情報だけでなく、分かりやすいQ&Aを作成している。また、優秀な新生（学業やスポーツ成績優秀者など）を獲得するために、潤沢ともいえる奨学金制度を設けWeb上で公表している。

入試方式・方法および入試における共通テストの利用方法と比重

推薦入学と指定科目考試の配分については、教育部の指定通り、推薦入学者は40%をこえず、指定科目考試による入学者が60%を下回らないように考慮している。ただし、大学側としては、入学試験別の配分よりも、むしろ入学率に関心を寄せているようである。当大学は、入学定員の94.2%が入学しており、全国的にも高い水準を維持している。当大学関係者の説明によると、技術系大学で約80%の入学率が通常であり、2007年度において、総合大学で最も低い入

学率は50%であったという。

「2008年度大学考試入学分發招生簡章(招連会編)」によると、静宜大学では、26の学生募集主体(学科)のすべてにおいて、学科能力測驗の成績を要求していない。ちなみに、台北大学では18の学生募集主体(学科)中の7つが、台中教育大学では17の学生募集主体(学科)中の6つが、それぞれ学科能力測驗5教科中の2、3教科の成績の下限を設定している。

入試方式・方法および入試における共通テストの利用方法と比重

入学者の学力については、現状では、指定科目考試による入学者よりも、推薦入学による入学者のほうが高く、以前はこの関係が逆であったという。

楊 朝祥 国立台湾師範大学教授

○略歴

教育部勤務 1990-2000 (国民党政権時代)

技術司長

事務次官 vice ministry

副大臣 deputy ministry 12年間?

大臣 (教育部長) 最後の1年

○高等教育政策の経緯

1. 連合試験時代 エリート段階 量よりは質 機会均等ではないが、1回の試験で公平

2. 拡大の時代/改革の時代 (1993年の10年) 高校・大学の拡大 (高校・大学の 신설、短大、専門大学からの大学への昇格) 現在 163 大学 (他に、軍、警察の大学がある) 学生数は 132 万人 経済的に豊かになり進学要求が高まった

合格率 25% (60年代) 26% (1965年) 96% (現在 2007年)

○量的拡大から質の確保へ

・量的拡大により、大学生の学力が低下した とくに総合大学 (科技大、専門大はそれほどでもない)

・そこで、質の保証・統制システム Quality Control System を導入予定。

1. 高校のQCシステム「学科能力品質管理」 各学年末に試験 合格しないと補習

(ソウル大の高校のアクレディテーションと同じねらい)

2. 大学合格最低点 (7月試験) の設定 7月試験終了後足切り点を設定 最低点以下の生徒は出願できない 今年の「18点で合格」が表面化して以降出てきた 教育部はやる気 12月頃に決めた 招生委員会では結論がまだ出ていない 以前にも同じ制度があったが、拡大期中止された (進学者が増えない) (現在は量から質への転換期なので復活させる)

3. 成績不振による退学制度の徹底 各学年で不合格科目が1/2以上2回連続するか、2/3以上だと退学

(留年生 (延畢生) 0.19% 退学 0.7% 教育部データ)

4. 学科ごとに学生の能力インデックスを作成し、その獲得をモニターする (ラーニング・アウトカムズ) 失業率が高くなっている (以前は2%台 過去数年 3~5% 大学教育と労働市場のミスマッチが起きている)

5. 大学評価制度 4年ごと 合格（定員を増加可能） 保留（1年後に再審査） 不合格（定員削減 2年後も不合格 学科閉鎖）

○報告率（入学率） 台湾大学95% 淡江80～90% 地方（新設）大学70%

大学、学科、年度により変動 アニメ、デザイン、CGは人気が高い

○教員の質向上 教育重視 教員評価（教学、研究、服務）の導入

○留学生の増加

量から質への変換、少子化による台湾学生の減少

中国本土からの留学生

○大学院の拡大

○多元入試 毛教育部長の時代に検討（国民党）

生徒の適性を伸ばすこと（動機付け）。

推薦入学・申請入学を増やし7月試験を減らす。

しかし申請書類の捏造（親など）、手間がかかる、格差が出るなどであまり増えていない。

「公平・正義」が試験の原則、昔の連合試験（一発試験）のほうが良いという人もいる（努力すればだれでも大学に行けた。現在は推薦・申請などは塾へ行かなくてはいけない）。